

山梨大学 留学生

センターニュース

no.7
2010
OCT

留学のすすめ

本学では、2010年9月現在、海外から220人の留学生を受け入れています。平成20年7月29日に日本政府が発表した「留学生30万人計画の骨子」の流れを汲み日本の大学の国際化が進む中、本留学生センターも、多くの留学生に山梨大学でしか得られないものを学びに来てほしいと願っています。その一方で、本学の学生を海外の交流協定大学へ夏季や春季の英語研修や1年の短期留学へ送り出す制度もあります。海外留学を自己研鑽としてだけでなく、異文化体験のチャンスとして捉え、できるだけ多くの学生の皆さんにその魅力を知ってほしいと願っています。

最近、海外へ留学する若者の数が減少しているという報道がされており、それは本学においても同様の傾向が見られます。そこで、今回は教育人間科学部国際文化講座の森田秀二教授に先生ご自身の思い出とともに、異文化体験としての留学の意義について書いていただきました。そして、「学生の声」には留学体験者のお二人の、皆さんへのメッセージを載せています。

現在、本学と大学・部局間協定を結んでいる大学は約30校あります。そのなかで、交換留学の制度があるのは、「学生の声」に体験記を書してくれたスザンネさんの母校、ドイツのドレスデン工科大学のほかに、英国オックスフォード・ブルックス大学（OBU）、米国イースタン・ケンタッキー大学（EKU）、「海外留学体験記」の執筆者である村上さんが留学したフランスリヨン第三大学※、オーストラリアのシドニー工科大学があります。

また、語学留学として、夏季英語研修（OBUとEKU）、春季英語研修（カナダのブリティッシュ・コロンビア大学）もあります。

留学を考えている皆さんは、以下へご連絡下さい。

国際交流室（055-220-8373）、又は

留学生センター奥村（055-220-8152）

※ リヨン第三大学への交換留学は教育人間科学部の学生に限ります。

「私の異文化体験」

教育人間科学部国際文化講座 森田 秀二 教授



私の異文化体験の原点はやはり何といたってもフランス留学です。修士課程のときに1年間、二度目には博士課程で4年滞在しましたが、異文化を五感すべてで体験し記憶に蓄積したのは最初の1年でした。ここではさらにその初めの1ヶ月に回想のフォーカスを当てることにします。

パリに着いたのが、19〇〇年8月31日（この10日後に毛沢東死去）。ふつうならば暑さも一息つく頃なのですが、この年は記録的な猛暑が続いていました。

パリでの最初の夕食をマクドナルドで済ませ安宿に投宿し、翌9月1日には語学講習を受ける地方都市トゥールに向かいました。急行列車の車窓に映るのはロワール河と旱魃にひび割れた土地ばかり。羽田国際空港を飛び立つ頃からほぼ「まな板の鯉」状態になっていた私は、列車のコンパートメントでいっしょになった中年のおばさま方にも躊躇わずに話しかけていました。異文化体験用の（賞味期限1年の）「私」をいつの間にか作り上げていたのだと思います。新しい風景と人々のなかで、私は新たな「私」を楽しんでいました。

学生寮は個室で、共同のキッチン、シャワーが各階にありました。週に何度か清掃係のおばさんが部屋のベッドメイキングまでしてくれるのには驚きました。当時、東京の安普請の下宿に住み銭湯に通っていた私にとってはまさに「文明」との出会いでした。語学学校（トゥーレーヌ学院）の授業は午前中だけでしたから、午後や週末にはトゥールの旧市街を散策したりロワール河の古城や近隣の村々を訪れたりしました。

トゥールでの1ヶ月は、ピーナッツバターと思って買ったマスタードの瓶の形すら未だに目に浮かぶほど記憶にしっかり留められています。クラスメートのスペイン人の女の子がクラス担任の先生に片思いした挙げ句、女子寮から飛び降り自殺を図る（幸い未遂）という思いがけないドラマで幕を閉じました。

この1ヶ月が（そしてその後過ごしたパリでの時間が）私にとって未だに特別なのは、何も最後のプチドラマのせいではなく、ましてやマスタードがピーナッツバターにみえたといったミニドラマのせいではありません。あの期間を私がツーリストでもなく異国の住民でもなく、ひとえに留学生として生きたからだとは思いますが。ツーリストは通り過ぎりに風景を見る人です。異国風景に驚きながらもコピー（絵葉書）とオリジナル（実物）の一致にどこか安心しながら通り過ぎていきます。一方、そこで生活する住民にとって生活環境とは空気のような日常に他なりませんから、それを改めて驚きをもって風景（非日常）として見る機会はありません。それに対して留学生は一応生活者ではありますが、日常環境を風景として見るができる特権的な生活者なのです。実際、留学生であるというのは不思議な感覚です。そこにいながらそこに所属せず、そこを（そして自分を）幾分は観客のような眼差しで眺めている。しかもこの感覚は異国から戻った後でも残り、今度は自国の日常にいつの間にか非日常的な眼差しを向けていることに気づいたりします。

私が留学をお薦めするのはこの不思議で愉快的な感覚をぜひ味わってもらいたいからに他なりません。



学生の声

海外留学体験記

「私の生涯の宝物」 留学を考える皆さんへ

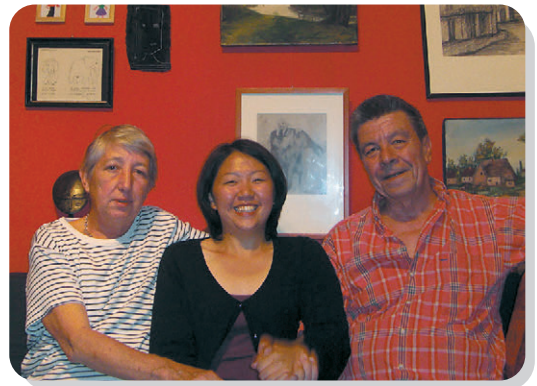
教育人間科学部 国際共生社会課程
国際文化コース 4年 村上 啓子

私は9か月間フランスのリヨン第三大学に交換留学をしました。幼い時から、海外で暮らし言語を習得し現地の習慣などを知りたいと思っており、留学することが夢でした。夢の留学生生活を終えた今、この経験は私にとって「生涯の宝物」となることでしょう。

フランス留学を振り返ると、ホームステイの生活と友人の存在が何よりも宝物だったことがわかります。フランスへ発ったときの私は、単語で会話することしかできず聞き取りもゆっくり話してもらわなければ理解できないレベルでした。そんな私でしたが、帰国の頃にはフランスでの日常生活が普通に送れ、大学の授業も“楽しい！”と感じ、試験に備えられるまで理解できるようになりました。それは、友人やホストファミリーのおかげです。彼らは常に、「相手の話していることが理解できないときは、必ず分からないことを質問する」、「自分が伝えたいことが伝わらないときは、いろんな表現を用いる」という二点の大切さを伝え続けてくれました。これらはつまり、「諦めてはならない」ということだと思います。相手を理解できないところや自分のことを伝えられないことがあると、とても悔しくつらい時さえあります。しかし、諦めず日常の会話を続けることで語学力は確実に向上しました。さらに、信頼関係も生まれ、ホストファミリーとは本当の家族のようになれましたし、フランス留学中にできた友人とは現在も連絡を取り合っています。また、ホームステイでは日常生活の中で食文化や習慣などを肌で感じることができました。

留学は、決して楽しいだけではありません。私も留学当初は電車に乗ること、スーパーへ行くこと、銀行口座の開設など生活に関する不安があり、また大学の授業登録など分からないことも多く、気持ちが折れそうになることもありました。しかし、諦めないで取り組むことで何事も乗り越えることができました。そして何よりも、人との出会いが留学の財産になっています。

留学を考えているみなさんにも、留学するという目標を叶えるために、分からないことは先生方や国際交流室の方に尋ね、自分から積極的に動いてほしいと思います。そして、留学することができたとき、何事も諦めずに取り組んでください。そこで得られる出会いはかけがえのない、一生の宝物になると思います。私も留学で得られた縁を大切に、学んだことを活かしてこれからの人生を歩んでいきたいと考えています。そしてまた近い将来に、フランスの家族と多くの友人に会いに行きたいと思っています。



リビングでホストファミリーと

★ 国際交流ボランティア・グループの紹介 ★



山梨大学には、学生主体の学内国際交流団体『梨大国際交流実行委員会（通称：NICE）』があります。毎週木曜の昼休みに昼食をとりながらおしゃべりを楽しむ「ランチ会」や、ピクニックやクレープパーティなどの「イベント」、興味あるテーマについて話し合うことでお互いの理解を深める「ディスカッション」があります。留学生と日本人学生との交流に興味のある本学の学生なら、いつでも誰でも参加することができます。

連絡先：nashi.nice@gmail.com

日本留学体験記

「甲府、そして山梨大学に来てよかった！」

スザンネ・エルベン

ドイツ ドレスデン工科大学より 1年間交換留学

甲府に来た最初の日をよく覚えている。狭い道路、寺と神社、知らない顔、顔、顔、そして香りもドイツとは違う。新しい大学生活の中で日本語はほとんどわからないものの、たくさんの新しい感懐や印象が果てしなくあるように思えた。「ここで本当に生きていけるかな…」と心配もしていた。あの時から、早くももう1年が経とうとしている。

初めは特に日本語が問題だった。言葉の壁と文化的な違いがあるため、日本人と触れ合うのは難しいと思っていたが、留学生センターで開かれている日本語の集中授業と、昨年設立されたばかりの日本人学生と留学生の交流や関係を支援するNICEという交流会のお陰で、日本語力はかなり速く高まり、他国から来た友達も数多くできた。しかも、1年を通してNICEや留学生センターの先生方が企画するさまざまなイベントもあった。そのイベントで和紙など日本の伝統的な物を作って日本文化を経験したり、桃狩りでは山梨ならではの食べ物を試したりすることにより、地域に親しむことができたように思う。そんな留学生生活はつまらないわけではなく、楽しく、面白い毎日だった。病気のときや授業科目の選択のときなど、何か問題があったら、友達の他にチューターや指導教員の先生、そして国際交流室や日本語の先生方が手伝ってくれた。皆さんに心から感謝している。今はもう日本での日常生活にも慣れ、日本語も話せるようになってきて、多くの友達ができた。残念ながらもうすぐ国に帰らなければならないが、今、「甲府、そして山梨大学に来て本当によかった」と心から言える。



2010年度（平成22年度）後期 時間割					
	月	火	水	木	金
I 8:45～ 10:15		日本事情Ⅱ(伊藤)		初中級ⅡB(江崎) 研修Ⅱ(江崎)	
II 10:30～ 12:00	初中級ⅡA(奥村) 研修Ⅱ(奥村) 中上級Ⅱ(仲本) 研修Ⅰ(江崎)	研修Ⅰ(長阪) 研修Ⅱ(二宮) OH(伊藤)	中級ⅡA(仲本) 研修Ⅱ(岡部)	研修Ⅰ(奥村) 研修Ⅱ(伊藤) OH(江崎)	研修Ⅰ(井上)
III 13:00～ 14:30	研修Ⅰ(江崎) 研修Ⅱ(奥村) OH(仲本)	研修Ⅰ(長阪) 研修Ⅱ(二宮)	研修Ⅱ(岡部)	研修Ⅰ(奥村) 研修Ⅱ(伊藤)	中級ⅡB(伊藤) 研修Ⅰ(井上)
IV 14:45～ 16:15	研修Ⅰ(江崎) OH(奥村)	研修Ⅰ(江崎)		研修Ⅰ(奥村) OH(伊藤)	研修Ⅰ(井上) OH(伊藤)
V 16:30～ 18:00		異文化(奥村) 上級Ⅱ(江崎) 甲府・補講(長阪) 甲府・補講(井上) 甲府・補講(長阪) OH(高田谷)			
VI 18:15～ 19:45			医学部・補講(長阪) 18:00～19:30		医学部・補講(岡部) 18:00～19:30
VI以降	医学部・補講(高田谷) 19:00～20:30		医学部・補講(二宮) 19:30～21:00		医学部・補講(岡部) 19:30～21:00

OH：オフィス・アワー

留学生センターの取り組み

学部向け日本語・日本語関連科目、日本語補講

学部留学生を対象とする日本語授業として、「初中級」、「中級」、「中上級」、「上級」の4レベル6科目が前期・後期ともに開講され、「演習（プレゼンテーション）」が前期に開講されています。また、日本人学生とともに日本の文化や社会についての理解を深める「日本事情」、異文化の理解と尊重を目標にした「異文化間コミュニケーション」の授業も開講されています。いずれの授業も、eラーニングをさらに取り入れ、学習効果をより一層高めるよう努めています。

また、本学に在籍する日本語能力が十分でない大学院留学生及び研究生などを対象に、日本語補講が開講されています。入門レベルから論文作成レベルまで幅広いクラスがあり、甲府キャンパス・医学部キャンパスともに提供されています。山梨大学に入学した入門レベルの受講生を対象とした、サバイバル・ジャパニーズ・テキストの作成を2009年度後期から開始し、現在補講で試用しています。

留学生指導・相談

山梨大学の全留学生に向けた、留学生のための相談室があります。留学生に関わる日本人学生やチューター、教職員の方からの相談にも対応しています。また、就職ガイダンスやセミナー等の開催などを通じて、留学生の就職指導・支援にも力を入れています。

日本語研修コースⅠ・Ⅱ

国費留学生を対象として前期に日本語研修コースⅠを、そして後期に日本語研修コースⅠとⅡを15週間にわたって開講しています。研修コースⅠは初心者から初級前期レベルの受講生、そして研修コースⅡは初級後半から中級へといったレベルの受講生を対象としています。国費留学生のほか、私費留学の研究生、そして交流協定大学からの交換生も多数参加しています。

これらのコースの最終日には成果発表会と修了式が行われます。2009年度後期は、2010年2月17日（水）に研修コースⅠとⅡの受講生、合わせて23名の成果発表会が、本学情報メディア館多目的ホールで行われました。受講生が興味を持つ日本文化の一面や受講生自身の国の文化についての発表が非常に興味深く、時間の経つのがとても早く感じられました。受講生や聞きに来てくださった指導の先生からの鋭い質問にも、一生懸命答える受講生の姿が印象的でした。

2010年度前期は、2010年8月2日（月）に成果発表会を行いました。研修コースⅠの修了生5名によるプレゼンテーションは、日本文化の習慣や伝統文化の一つを取り上げたものがほとんどでしたが、一般的なテーマでありながら、深い洞察力や独自の興味深い切り口で展開された発表ばかりで、初級修了レベルとは言えるものの、とても質の高い発表会となりました。



2009年度後期修了式



2010年度前期修了式

日本・山梨文化体験と行事の数々

■留学生餅つき地域交流会 (2009年12月6日)

甲府市岩窪町の住民の方々と留学生との交流会が、約70名の参加者を得て甲府国際交流会館で行われました。留学生と地域の方々が協力してお餅をついた後、留学生によるスピーチや各国料理の提供、また、地域の皆さんからは獅子舞や和太鼓が披露され、交流を深めました。



■学長主催 留学生懇談会 (2009年12月14日)

前田秀一郎学長主催の留学生懇談会が、甲府キャンパス大学会館で開催され、留学生や教員、県内国際交流関係の来賓の方々など、約200名の参加がありました。参加者たちは、心のこもったスピーチ、歌や楽器の披露などを通して、交流を深めました。また、最後に「やまなし 留学生スピーチコンテスト」の受賞者の紹介も行われました。

■和太鼓体験ワークショップ (2009年12月21日)

和太鼓は、日本の伝統的な楽器の一つです。本来は祭りや能、歌舞伎、そして神社やお寺の儀式などで演奏されるのですが、なんと本学でもその力強い音が響き渡りました。山梨の地域で活躍中の和太鼓集団「成り行き」と「三宅太鼓山梨支部」の皆さんのご協力により、日本人学生も含めて約30名の参加を得て、和太鼓演奏と太鼓体験ワークショップが行われたのです。ワークショップでは全員がバチを両手に、お腹に響く音とリズムとバチを通して伝わってくる感触を体全体で楽しみました。



■日本酒試飲ツアー (2010年2月18日)

後期の期末試験も終わりホッとするこの時期、山梨では左党が避けて通れないイベント「七賢 酒蔵開放」が行われます。留学生にも日本酒のおいしさを知ってもらうこのイベントに、11名が参加しました。醸造工程の見学の後、いよいよ「利き酒コーナー」へ。留学生たちは、米の原料や製法に違いがあること、飲む温度に対するこだわりがあることを知って、驚くことしきりでした。また日本酒好きの留学生が増えたようです。

■和紙漉き (2010年5月17日)

伝統の紙漉き法をアレンジしたワークショップに留学生9名が参加しました。留学生それぞれが和紙や淡い色で絵柄をデザインし、団扇やタペストリー、ランプシェード作りに挑戦しました。デザインが決まるまでにかなり時間がかかりましたが、作業が始まるとだれも口をきかなくなり、一心不乱に作業していました。伝統的でありながら、普段使いができるものが出来上がり、全員大いに満足していました。



■ホームステイ・ホームビジット（2010年6月19日～20日）

9名の留学生在6つのホストファミリーのお宅を訪問し、ホストファミリーの方々と交流を楽しみました。ワイナリー見学や蕎麦打ち体験に連れて行ってもらったり、なかには、母国の料理をホストファミリーの方々と一緒に作ったという留学生もいました。日常生活でなかなか地域の人と交流する機会のない留学生にとって、貴重な経験になったようです。これを一つの契機に、留学生が一層地域に溶け込み、地域の方々と交流が深まることを願っています。

■華道体験（2010年7月20日）

本学の華道部で教えていらっしゃる池坊の雨宮由紀子先生のご指導の下、12名の留学生在ニューサイラン、ヒペリカム、すかしユリといった花材を思い思いにいけました。先生のお話の通り「その人の今の心が表れた」いけばなの、その楽しさと素晴らしさを体験することができたようです。池坊の家元からは英語と中国語のパンフレットを送付いただき、華道部の学生さんたちにも当日の準備やお手伝いをしてもらうなど、いけばなを伝える人々の心の温かさを感じられた経験となりました。



■留学生のための統計講座（2010年7月20日～21日）

本学総合分析実験センターの中本和典教授による留学生を対象とした統計講座入門コースが実施されました。両日とも11:00～12:30と13:30～15:00の2コマの中で、基本統計、推定と検定の基礎、t検定、カイ2乗検定、ノンパラメトリック検定と幅広い統計の基礎が紹介されました。受講者は甲府・医学部両キャンパスあわせて5人という少人数でしたが、個々にあわせてゆっくり学ぶことができました。日本語と英語を使用した講義は、実際にエクセルを使いながら進められ、今後の研究に大いに活かせる役立つ内容でした。

■書道体験（2010年7月21日）

本学教育人間科学部国語教育講座の宮澤正明教授のご指導の下、留学生の書道体験が行われました。書道初心者を対象に行われた今回は、書道の歴史、使う道具と書くときの姿勢など基礎的なことを学んだ後、静かな和みの空間の中、ひらがなから簡単な漢字、そして最後は書きたい漢字、または二字熟語を選び、その字のイメージを思い思いに表現する時間となりました。



■桃狩り体験（2010年7月24日）

医学部の研究留学生を含む留学生21名が笛吹市一宮町へ桃狩りへとくり出しました。笛吹市はフルーツ王国の山梨の中でも、桃狩りやぶどう狩りで有名な地ですが、夏の光を浴びながら育った桃は、ジュシーで甘い香り一杯。その美味しさに8個も平らげる学生も出るほどでした。その後、甲州銘菓「桔梗信玄餅」で知られる「桔梗屋」の工場でお菓子の製造工程を見学したり、山梨の郷土料理をレストランで楽しんだり、山梨の食文化に触れた一日となりました。



■たべもの異文化交流会 (2010年8月24日)

留学生と地域の交流や食を通して異文化への理解を深める「たべもの異文化交流会」が、医学部キャンパス国際交流会館で開催されました。今年は異例の暑さにも関わらず約300人もの参加がありました。是非食べてみたいと、昨年初出店の中国の刀削麺につられて来た人、汗だくでマライティッカ用の肉を焼いてくれたパキスタンの留学生、そしてゆかたを着てお抹茶を楽しむヴェトナムの留学生など、それぞれが国際色豊かなひとときを楽しみました。



■実地見学旅行 (2010年9月16日～17日)

9月中旬とはいうものの残暑厳しい京都で、清水寺、二条城、金閣寺、北野天満宮などを散策する一泊二日の旅は、夏の最後のいい思い出となりました。清水寺では、幸運にも観音加持青龍会が行われており、伝統の中にも現代のセンスも息づく青龍会の行道を参拝でき、大感激。散策の後は生八つ橋づくりを体験、できあがるや否や口に運ぶ学生もいました。普段なかなか叶わない医学部と甲府キャンパスの学生交流の場ともなりました。



袁芳さんが第1位を受賞

第6回 やまなし 留学生スピーチコンテスト (2009年11月29日)



山梨県内の大学・短期大学で学んでいる留学生が参加する「やまなし 留学生スピーチコンテスト」が、本学赤レンガ館で開催されました。山梨の各大学からたくさんの留学生の有志が応募し、体験談を交えてスピーチを披露するというものです。今回のテーマは「座右の銘」という人生観に触れる難しいものでしたが、どのスピーチも印象に残るものばかりでした。今回は、本学の教育学研究科学校教育課程の袁芳さんが第1位を受賞しました。

第7回は、2010年11月28日(日)13時より、本学赤レンガ館にて行われます。

留学生 センター 教員



奥村 圭子
kokumura@
yamanashi.ac.jp
055-220-8152



高田谷 久美子
kumikot@
yamanashi.ac.jp
055-273-8289



仲本 康一郎
knakamoto@
yamanashi.ac.jp
055-220-8272



伊藤 孝恵
takeai@
yamanashi.ac.jp
055-220-8753



江崎 哲也
esakit@
yamanashi.ac.jp
055-220-8752

山梨大学留学生センター

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37 TEL 055-220-8047/8373
MAIL yu-study-abroad@yamanashi.ac.jp

山梨大学 留学生センターニュース 2010年10月発行